

## IN-SLEEP DRAWING (ISD/寝画)

自我を捨て去り、夢をつづる  
無意識に存在するもうひとつの自分

もし、僕たち人類の中に比較や競争という概念がなかったらどうなっていたんだろうか  
とこの頃ふと思う。もちろん、科学や医学、文化もこれほどの発展は得ることなく、当然、  
今の娯楽に満ちた快適な生活とは無縁な世の中になっていただろう。だけど、人間本来の  
プリミティブで牧歌的な生活だったのではないだろうか。

「何をノスタルジックな」と笑う人は多いだろう。しかし、これほどまでに高度に発達  
した消費経済と情報化時代は、処理不可能な情報が飛び交い、それに左右され、欲望は一  
気呵成に世界中を駆け巡る。

世界経済に占める、金融取引額つまり金融経済は、80%以上を占めるまでに成長。製造  
業を中心とした実態経済は20%を切ることになる。つまり、汗を流した身体的労力よりも、  
必ず胴元が儲かるカジノ経済に変貌していった。当然、富の格差は広がり、同じく等しく  
あるはずの命の重さまでもが、極端に軽く扱われる例が多々ある。

こんな時代だからこそ、アートや音楽に新たな価値観を提示して欲しいと僕は期待して  
いる。

### 価値観が変わる

この、二、三年で浜崎の作風が大きく変わり始めている。物をできるだけ捨て去り、所  
有しない生き方を提示した IN-FLIGHT PAINTING (IFP) がそのプロローグともいえる。「こ  
のところ僕自身もそうだけど、従来の価値観が大きく変わる節目だと多くの人たちは気付  
き始めている。NYでの9.11の惨事、それに、伴う武力行使、リーマンショックによるマネ  
ーゲームの大罪、そして、3.11の東日本大震災の大惨事と原発の安全神話の崩壊。そして、  
彼自身も知らぬ間に実家を取り壊され、大切にしていた思い出の数々を失った」。

「個人的な思い出の品は確かに失ったけれど、いっそ、スッキリして気持ちが軽くなっ  
た」。彼自身がどこかにしがみ付いていた心の檻から解放された瞬間だった。

果たして、今の日本で一戸建て住宅とマイカーのローンを組み、将来設計をなし得てい  
る人たちは、どれくらいいるのだろうか。それよりも、自然と触れ合い季節を感じること、  
ささやかな食事での家族の団らん、美術館でアートに触れる、もう青天井の成長神話なん  
てものないと悟った人々だ。

浜崎の作風の変化は、こういった本当に好きなことをして寛ぎを得る人たちが増えつつ  
あるのとは無関係ではない。家やブランド物、旺盛な消費と異にする人たちは、今、改め

で実のある生き方を目指そうとしている。なるだけ、余分なものを捨て去り、本来、こよなく愛していたものにもう一度見つめなおしていく。それは、すごく限られた時間だけでも、その価値は、その人でしか得られない充足感がある。

IFP で訪れたタイから

浜崎が IN-FLIGHT PAINTING を始めたのは、3.11 以降になる。キャンバスとペンだけを機内に持ち込み、一フライト中に一点の作品を制作する。主に雲をモチーフにしたものが多い。これは、彼にとって自分に科したルールの中で制作するという“行為”そのものをより重視していくことに繋がっていく。

「飛行機に乗ることも大好きだけれども、もうひとつ好きなことがある。それは。寝ること（笑）。ダラダラ横になっているのが大好きなんだ。ふと、寝ながら作品が出来たら最高だなあって。やるなら、好きなものでシンプルじゃないとね」。

そして、タイを訪れた時、奇妙な仏像と遭遇する。アクリルのような素材で作られたピンクやオレンジの仏像。「めちゃくちゃファンキーで、薄っぺらいというか、一切の権威性も感じられないところが、すごく、気に入った」。これは、何かと聞くと、タイでは誕生日より生まれた曜日に重きを置いていて、その曜日の仏像を大切に。「日本では、それなりの風格を持って造るんだろうけど、タイは技術や造形美より単純に色だったんだ」。この単純明快な価値観も浜崎にとって惹かれるところだった。

具体的には、日（Red/赤色）、月（Yellow/黄色）、火（Pink/桃色）、水（Green/緑色）、木（Orange/オレンジ色）、金（Blue/青色）、土（Purple/紫色）。詳しくは後述参照に。

呼吸するように自然体で

寝ながら何か出来ないかと浜崎は「実験してみたんだ。2012年の12月25日、寝る前に指にピンクと黄色のペンを布バンドで巻き、その下にキャンバスを置いて就寝。二色使いでは、何か訳が分からないというかピンとこなくて、翌年の1月1日からタイの曜日に即した色使いを参考にして、一色使いに変えてみた。無意識に走らせたペンの跡を確認しながら、二時間程かけて、その日に見た夢を思い出し、出来る限り文章にするようになった。そう、自分の中のもう一人の自分と対話するようなものかなあ。」。一日、一作品が知らぬ間出来上がる。それを、ほぼ毎日続け、1月から12月まで月ごとにまとめられて展示してみた。「最初は違和感もあったけどね。ちゃんと寝ることが大事なんだ（笑）。そう呼吸するように描き、夢日記を書くんだ」。

彼の夢日記には心理学の太祖フロイトの言うリビドー、初期衝動は出てこない。むしろ、ユングの言う無意識下の意識が表出される。IFP で数十フライトを超え、様々な国を訪れ、その風景を見て、匂いを感じ、現地の人々と直に接してきた。足で稼いだ膨大な情報と経

験は、浜崎の内面に蓄えられていった。

つまり、「旅人」としてのスタンスで、夢の中で現れる風景をなるべくドライに書きしたためている。浜崎は、「社会で起きていることよりも、すごく、個人的なことがほとんど。それも、楽しい夢ばかり」と青年期のアルバイト、熱中したテニスやファッション、出身地の思い出、そして、今、身近にいる友人との交流。

ただ、個人的だけに視線を低くして社会を見ている。それは、世界の重大な事件や関心ごとではないけれど、よく読み込めば、言葉の中に実感のある思いが読み取れる。

### 切り取る風景の切実さ

ある日の夢日記では、彼の実家を幼馴染が解体している風景を、何も出来ずに眺めている。地方ならではの地域の温かいふれあいや相互補助の関係がなくなりつつあり、経済だけでなく、人との結びつきまでも壊れている様子、それをただの風景描写にとどめることで、より切なさを感じさせる。

一方、都心部での夢では、彼が大好きだったデザイナーが「ファッションは生鮮食料品と変わらないのよ」と言っている。現代を代表するデザイナーであり、日本の知性といわれる思想家まで愛用したブランドだ。

これ読んで、ポストモダンとは一体何だったのかと考えさせられる。前時代的な価値観とその構造を批判した80年代は、アート、思想、ファッション、ミュージックがまるで響きあうように呼应し、ムーヴメントを引き起こし、僕たちはそれに深く浸透していった。しかし、今あるのは、旧態依然としたシステムよりも、更にドライで冷淡な新たな権力構造を再構築しただけではないのだろうか。秩序や礼節を軽んじたばかりに… そして、そのシステム自体が今、ダウンしつつあり、もはや、モラルを問うことも忘れてしまった。

だから、浜崎は怜悯な思考によるコンセプチュアル・アートよりも、作為的に組み立てられた表現よりも、いや、単純に思考よりも身体に備わっている温かみのあるものが、無意識下できっと表出してくると信じている。だからこそ、敢えて孤独な作業を淡々と積み上げている。無欲になり切れるかと。

そして、彼が描く文章は、俳句に似ている。短い風景描写の中で相手の心を読み取り、思いやる。誰もが、自分の心中を表現できる庶民の文学だ。文豪の大作のように大きな感動を得たりすることはない。だけど、それには、静かにしみ込んでくるものがある。声高に言い表すよりも確かに。

### 幸せは今この場にある

浜崎は言う。「今、社会が悪い方に進んでいると思っている人が多いかもしれない。でもね、今が転換期なんだよ。すごく、楽しくてワクワクして幸せな時代の扉がそこまで来て

いるんだ。その、思い、それを信じる生き方を決して忘れてはならない」と。

今、僕は敢えて冒頭の言葉を翻す。比較や競争があったからこそ、科学や医学、文化が発展し、僕たちはその恩恵を与えられている。少し昔では結核が死の病だったのだから。そして、愚かしい戦争があったからこそ、幾千万人の屍があったからこそ、僕たちは平和を享受している。そう、この一日、一日が奇跡であり、喜ばしい日であることと実感できないことは、ある意味、死者を冒瀆することにも等しい。

何も変わらない毎日が続いているのだろうか？ふと、目を凝らせば素敵な出来事が身近にたくさんある。本当の心の目を開けば、それは、きっと見つかる。それぞれ、一人一人違った光るものが内面にきっと備わっている。今、気付かないかもしれない。日々、無駄だと思い込んでいるもの、決して、役に立たないものにこそ人生を大きく変えるヒントが埋め込まれている。

これまでの、欲望に身を任せたジェットコースター・ムービーが嫌になったのであれば、日々、地道にコツコツと積み上げていくことしかない。ある日、魔法が解けてバラ色の生活が訪れることはないんだ。ただ、地道に積み上げていけば、知らぬ間に持久力が養われ、ある日、突然、飛躍する時がある。底堅いストラテジーが出来上がったからだ。そして、自分自身の積み上げた日々を比較、検証していかなければならない。その最大の敵は今までの価値観に囚われて欲望という名のアクセルを踏み込もうとするもう一人の自分だけだ。

#### アーティストの使命とは

浜崎は、今、改めてアーティストとして究極の目的は何かということをも自分自身に問いかけている。「決して、大きな美術館に所蔵されるのが夢ではない。アーティストとしての使命とは何か、この根本が今、問われている」と。

アートとは誰の所有物なのだろうか。国家のものか、富裕層の人たちのものか、それとも、投機として扱う人たちのものか。浜崎は「寝たきりになってしまった人たちは、どう表現できるのだろうか」と唐突に言い出した。

この ISD (寝画) は、ただ無意識に走らせたペンの軌跡だけだ。「作家は、抽象を描こうとして、抽象画を描くけれど、それには、何か人為的なものが隠されている。そこには、意味があるようだけれど、本質的な何かが欠けている気がする。僕のは、ただ、寝ている間に勝手に動いた手が描いたものだけれど、毎日、違うものが出来上がる。すごく、不思議な感じがする」。そう、浜崎は、極限の身体状態に置かれても、人は必ず表現できると信じている。

そして、卓越した文章表現ができなくても、肩に力を入れなくても、ありのままを単純に書くことが、より心に伝わるが多々あることを具体的に見せてくれている。つまり、アートとは、全ての人たちが楽しめて、そして、表現できる唯一のものだと。

それぞれいろんなしがらみ、制約でがんじがらめになり、楽しむことが難しい時がある。そんな時は、自分の内面をきれいにしてやろう。そうしたら、必ずひとつのピース、欠片が見つかる。それは、どんなものよりもずっと大切なあなたの宝物だ。それが、見つければ、自分で閉じた心の扉の鍵を開け、自分自身を解放してやろう。どんなにしんどくて、厳しくても心の自由はあなただけのものだから。そうしたら、モノクロだった世界がヴィヴィッドな色に包まれた世界にきっと戻ってくる。僕もそう信じている。

八木 健一

### 参考資料

#### タイにおける曜日毎の色と仏像

タイでは曜日毎にその曜日の色や仏像が決まっている。自分が生まれた曜日の色を身につけたり、仏像に拜んだりすることが幸運をもたらすと人々の間に深く浸透している。昔、国民がまだカレンダーを持っていなかった頃は、宮廷に出仕する女性の洋服の色を見て人々はその日が何曜日かを知っていたという。

#### 曜日ごとの色・仏像

日曜日：曜日は赤。仏像は現地語でプラプッタルー・パーンタワイネートと呼ばれ、その姿は右手を上にして両手をお腹の上で組み、菩提樹を見つめている立像。曜日の数字は6。守護方角は北東、守護動物は鳥（ガルダ）。仏像の意味 仏陀が神聖な木（菩提樹）の下で、7日間の瞑想を行ったときの姿で、菩提樹の前に立ち瞬きもせず見つめ続けた（目を献上する）といった意味がある。



月曜日：曜日は黄。仏像の読み方には諸説あるようだが、一般的には、プラプッタルー・ハーム・サムトーンと呼ばれ、その姿は、左手を垂直に降ろし右手のひらを胸の高さで外に向けている立像。曜日の数字は15。守護方角は東。守護動物は虎。仏像の意味（昔々）川沿いに二つの国があり、飢餓・日照りから水（雨水）を巡って争いを始めた。仏陀は二つの国に仲良くするようなだめ（争いを制し）、飢餓・日照りを制止した姿を意味している。



火曜日：曜日は桃色。仏像はプラプッタルーブ・パーンサイヤートと呼ばれ、その姿は右手を枕に乗せて腕を耳に当て手のひらを開いて頭を抱え、左手は腰のほうへ伸ばして目を閉じ両足を揃えて横になった寝釈迦像。曜日の数字は8。守護方角は南東。守護動物はライオン。仏像の意味 仏陀が涅槃(ニルヴァーナ)の境地に達し、悟りを開いたことを意味する。入滅したときの姿とも言われる。



水曜日：曜日は緑。仏像はプラプッタルーブ・パーンウムバートと呼ばれ、その姿は、右手を側面に左手を底に添えて両手でお布施の鉢を前に抱え、足を揃えた立像。曜日の数字は17。守護方角は南。守護動物は牙がある象。仏像の意味 仏陀がお布施をする姿を意味している。シャカ国の王子であった仏陀が修行の旅に出る際、王様(父親)が食料を持たせたことが起源とも言われる。



木曜日：曜日はオレンジ。仏像はでプラ・プッタルーブ・パーンサマーティと呼ばれ、その姿は左手を下にして手のひらを組み、右足を上に胡坐をかいて瞑想している坐像。曜日の数字は19。守護方角は西。守護動物はネズミ。仏像の意味 仏陀が瞑想の後、悟りを開いたとされる日。木曜日には「ワン・クルー(ワン・アーチャン)＝先生の日」といった意味合いもあり、結婚・祭事などを行う際に適した曜日とされる。



金曜日：曜日は青。仏像はプラプッタルーブ・パーンラムブンと呼ばれ、その姿は右手を上にして両手を胸の上で交差し、仏法と伝道について瞑想する立像。曜日の数字は21。守護方角は北。守護動物はモグラ。仏像の意味 仏陀が悟りを開き、これから人々に説法へと赴く前の姿と言われ、法を説くことに対する自問自答、確認作業の様子を意味している。



土曜日：曜日は紫。仏像はプラブッタルーブ・パンナークプロットと呼ばれ、その姿は右手のひらを上に体の前で手を重ね、背後にいる7本頭の蛇・ナーガに保護されて瞑想している坐像。曜日の数字は10。守護方角は南西。守護動物は蛇（ドラゴン）。仏像の意味 仏陀が7日間の瞑想に入っているとき、雨嵐が吹き荒れたが、菩提樹の葉がドラゴン（竜）／ナーガ（7本頭の蛇）へと変身し仏陀を守ってくれた。そのときの様子を意味している。



※仏教色の強い寺院で並んでいるのは以上の7体。バラモン教色が強い寺院では水曜の夜と毎日  
を足した9体となっている。